

（１）大学・学科の設置理念

①大学

学校法人親和学園は明治20（1887）年に神戸元町に開校された親和女学校を創始とし、今年、創立136年を迎えている。その建学の理念・精神は、校祖友國晴子による「誠実」「堅忍不拔」「忠恕温和」という3つの校訓に表現されている。その教育目的も時代に先んじて「社会において自立して活躍する女性の育成」にあった。校祖は、当時、すでに教育の目的、いわゆるパーパス（社会的な存在意義）を女性が社会のために尽くす内外ともに有用な人になることの必要性を自覚していた。こうした思想はこれまで脈々と継承され、現在も精神的な支柱となっている。

こうした親和学園の伝統を継承しながら、昭和41（1966）年に神戸親和女子大学が創設されたが、その建学の理念は、学則第1条に明記されているように「建学の精神に基づき、社会の発展方向を広く視野におき、学芸に関する多様な教育研究を通して豊かな教養を培い、専攻に係る学識を深めることによって、総合的判断力をもち主体的に社会に対応できる人間を育成することを目的とする。」ものである。

神戸親和女子大学（以下、「本学」という。）は、開学当初は、文学部国文学科（入学定員100名）と英文学科（入学定員100名）の2学科で構成する1学部の単科大学として開設された。昭和47（1972）年には文学部に教育学を専攻分野とし教員養成（幼稚園教諭及び小学校教諭）を主たる目的とする児童教育学科を設置した。その後、時代のニーズ、社会のニーズに応えるように、学生数を増やし入学定員を逐次増加していった。平成17（2005）年には児童教育学科、心理臨床学科、福祉臨床学科の3学科で構成する発達教育学部を設置し、文学部と発達教育学部の2学部で構成する大学となった。さらに平成20（2008）年には、発達教育学部にジュニアスポーツ教育学科を設置した。その後も、改組・改革を進め、現在は文学部（国際文化学科と心理学科）と教育学部（教育学科とスポーツ教育学科）の2学部4学科で構成している。大学全体の入学定員385名のうち、文学部の定員は120名、教育学部の定員は265名となっている。

また、平成14（2002）年には、大学院文学研究科（修士課程）心理臨床学専攻（入学定員15名）及び教育学専攻（入学定員20名）を設置し、さらに、平成18（2006）年度には発達教育学部通信教育部児童教育学科（入学定員200名、3年次編入学定員400名）及び通信教育部福祉臨床学科（入学定員100名、3年次編入学定員200名）を設置した。

なお、福祉臨床学科は学部及び通信教育部とも、令和元（2019）年度から学生募集を停止している。

教員養成については、国際文化学科において国語の中学校・高等学校教諭の教職課程を、教育学科においては幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（数学、英語）、特別支援学校教諭の教職課程と保育士課程を、スポーツ教育学科では中学校・高等学校の保健体育教諭の教職課程を、それぞれ設置している。

本学の建学の理念は、学則にあるように、社会の発展方向を視野に入れて「主体的に社会に対応できる人間の育成」にあり、そこに本学の存在意義がある。校祖の目指した「内外ともに有用な人材の育成」を継承するものである。令和元（2019）年には、変化する社会に対応しつつ新たな未来を創造するために、建学の理念に基づき、教育ビジョンとしてSHINWA VISION 2030（ビジョン）を策定した。同ビジョンにおいて目標とする大学像（あるべき姿）は「学生が成長する大学」、「学びの共同体の拠点大学」、「グローバルマインドを育成する大学」の実現である。

なお、本学は、2023年4月より創立以来56年続いた女子大学に終止符を打って、男女共学の大学に移行した。その主な理由は、加速度的に進行する少子化、急速な女子大学離れ、そして教員養成学部・学科への逆風等々への対応である。そして共学化の趣旨は、今日の教育のパーパス（社会的な存在意義）が性別・人種・国籍・文化等の違いを超えて、共に社会的な課題解決に協働して取り組む人材の育成にあるという認識である。共学化を機に、改めて建学の理念を確認し、めざす教育のコア・バリューを「誠実・協働&共創・レジリエンス・思いやり&信頼」とし、「社会の新たな価値を創造する人材の育成」をパーパスとした。こうした理念、パーパス、コア・バリューのもとに、目指す人材像は①地域・社会の課題解決のために他者と協働して取り組むことのできる人材②社会の変化と多様性に対応できる人材③DX時代に貢献する知識とスキルを有した人材とした。

共学化によって入学者は大きく増加した。定員385名のところ467名の入学者があり、内、男子学生は159名であった。とくに教員志望の学生が193名（内男子70名）入学したことは、教員不足の現状からみて、社会的に意義のあることであった。ちなみに2024年度入試においても教員志望者は、男女ともに増加の見込みである。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

昭和47（1972）年4月に文学部に児童教育学科が設置された。当初、定員は50名で、幼稚園教諭と小学校教諭を養成する教育課程を開設した。平成14（2002）年に大学院修士課程に教育学専攻及び臨床心理学専攻を設置。次いで、平成17（2005）年には教育学科、心理臨床学科、福祉臨床学科の3学科で構成する発達教育学部を設置し、本格的に教育分野の教育研究と教員養成に取り組むこととなった。以後、学則にあるように「社会の発展方向を広く視野におき」、教育学科は教員養成の充実に注力してきた。たとえば、平成13（2001）年4月には、保育士養成課程を設置し、幼稚園教諭と保育士資格の両方をもつ幼児教育者の育成に努め、以来、幼稚園教諭、保育教諭、保育士の養成においても、小学校教員の養成においても高い実績を挙げている。令和2年度からは、小学校教育のニーズに応え、英語と数学の中学校教諭一種免許課程を設置し、小中一貫教育や教科に強い小学校教員の養成に注力している。

このように教育学科は設置以来、教員養成を主たる目的とする学科として発展してきており、高い社会的な評価を受けている。教育学部の教育目標は「豊かな教養と専門的知識をもち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。」であり、教育学科の目標は「子どもの教育と発達に関する専門的な知識と技能を持った実践力のある人材を育成する。」ことにある。なお、令和6（2024）年度から「児童教育学科」の名称を、初等教育から中等教育を担う教員養成を目指す「教育学科」に変更する。（届出済）

教育学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能を修得し、全人的な教養に裏打ちされた専門性と豊かな実践力を身に付けた教育・保育人材として、下記の専門的な能力・資質を身に付けた者に対して学位を授与することとしている。

- ① 使命感と責任感をもって人間愛にあふれた教育・保育を実践することができる。
- ② 教育・保育に関する専門的知識や技能に基づいて主体的・創造的に思考し、判断し、表現することができる。
- ③ 豊かな社会性や人間関係形成力を養い、他者と協働することができる。
- ④ 教育・保育に関する国際的な視野をもって社会に貢献し、地域に根ざして活動することができる。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

開学当初から、学則にも明記しているように、教育基本法及び学校教育法に則り、中央教育審議会の答申をはじめ、国の種々の施策に対応した教育課程、教員養成を展開している。また、社会の発展動向を踏まえ、建学の精神にもとづき、特色ある教員養成を行うべく、改善・改革に努めて優秀な教員を世に輩出してきた。時代の要請に応えるとともに、つねに資質・能力の高い教員を養成することが、本学の教員養成の目標である。

このような目標のもと、本学では、現在、文学部国際文化学科において中学校・高等学校教諭一種免許課程（国語）を、教育学部教育学科において幼稚園教諭一種免許課程、小学校教諭一種免許課程、中学校教諭一種免許課程（数学・英語）、特別支援学校教諭一種免許課程及び保育士課程を、スポーツ教育学科において中学校・高等学校教諭一種免許課程（保健体育）を、大学院文学研究科教育学専攻において幼稚園教諭専修免許課程、小学校教諭専修免許課程を、それぞれ設置し、これまで多くの教員を輩出してきた。加えて、通信教育部の教育学部教育学科において、学部の教育学科と同様に、幼稚園教諭一種免許課程、小学校教諭一種免許課程、特別支援学校教諭一種免許課程及び保育士課程を設置し、主に社会人の教員希望者へのニーズに込えている。

このような実績を踏まえ、現在、教員養成に関する時代の今日的な課題に鑑み、新たな教員養成に取組む構想を検討している。現在の教育課題である小中一貫教育をはじめとした学校間の接続の課題、小学校における英語教育の展開の課題、現代の高度な情報化やAIの急速な進歩に対応する理数科教育の課題等々に対応するために、とりわけ、複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づく指導力をもち、専門的な知識と技能を有する人材の育成という課題に応えるために、教育学科に、中学校教諭の教職課程（数学・英語）に加え、新たに高等学校教諭の教職課程を設置し、小学校教諭免許状と中学校教諭免許状（国語・数学・英語）、高等学校教諭免許状（国語・数学・英語）を併せ持った小学校教員を養成するとともに、小学校教育へも理解を持ち、中学校や高等学校でも指導できる教員養成にも取り組む計画である。時代の要請に応えながら、本学の特色ある教員養成を行っていききたい。

本学では、教員養成を支援する施設として平成20（2008）年に教職課程・実習支援センターを設置し、教職課程の全学的・計画的な運営を行なっている。教職課程・実習支援センターは全学的に教職課程を統括する組織として位置づけられ、学生の教職課程の履修指導に限らず、県、市等と協力して現職教員への各種の研修機会の提供や教員の資質向上のための協議会へ参加するなど、地域における教員の資質・能力の向上に貢献している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

教育学科は、先に述べた大学・教育学部の教育理念・目的のもとに、幼児教育及び児童教育の教育研究を学科の使命とし、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭及び特別支援学校教諭の養成を主たる目的として教育課程を編成し、運営してきた。2020（令和2）年度からは小学校教諭の免許状と中学校教諭の免許状（数学、英語）の併有を可能とする教育課程を編成し、小中一貫教育にも対応できる教員の育成に努めている。

なお、教育学科は開設以来、多くの優秀な教員を輩出しているが、近年の教員（保育士等を含む）としての就職実績は次表の通りである。

教員・保育士就職状況（教育学科）（過去5年）

単位：人

	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R 元年度	H30 年度

小学校	61 (67)	52 (58)	80 (88)	66 (71)	66 (74)
特別支援学校	7 (8)	10 (13)	10 (12)	8 (10)	12 (13)
中学校	0 (10)	1 (13)	1 (22)	0 (6)	0 (6)
高等学校	0 (3)	0 (8)	0 (10)	0 (7)	0 (7)
幼稚園	30 (30)	36 (37)	33 (34)	30 (30)	42 (42)
幼保連携型認定こども園【保育教諭】	20 (20)	47 (47)	51 (51)	34 (38)	35 (36)
保育所(園)・児童福祉施設【保育士】	30 (31)	31 (38)	37 (41)	31 (38)	34 (42)

()内は大学全体の就職者数

なお、令和2年度に教育学科に設置した中学校教諭一種免許課程（数学・国語）については、受講者数が数学、英語とも4年間の平均で20名前後おり、今年度は4年生1名が複数の県・市で数学の中学校教諭の採用試験に合格している。また、令和5年度の教員採用試験の結果は昨年並みである。

今後も、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭及び特別支援学校教諭の養成に努めるとともに、小学校教諭の免許状と中学校教諭の免許状（数学、英語）を併有した教員を育成するなど、教職課程の運営を通じ、社会から求められる優秀な教育人材の育成を引き続き進めていく計画である。

中央教育審議会答申（令和4年12月19日）「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」（以下、「『令和の日本型学校教育』答申」という。）においては、「小学校高学年における教科担任制の導入なども踏まえ、教師には、一層、学校段階間の接続を見通して指導する力や、教科等横断的な視点で学習内容を組み立てる力など、総合的な指導力を、教職生涯を通じて身に付けることが期待されている。」と指摘している。中央教育審議会答申の指摘を踏まえて、複数の教員免許を持ち、社会から求められる幅の広い知識・技能を持った教員を養成するため、教育学科に、中学校教諭一種免許課程（数学、英語）に加え、新たに中学校教諭一種免許課程（国語）高等学校教諭一種免許課程（国語・数学・英語）を設置することを計画している。

また、DXや国際化、地域貢献への対応も教員の資質を高める観点から重要な課題である。デジタル社会の到来に対応すべく、プログラミングやデータサイエンス関連の科目を配置する「数理・データサイエンスプログラム」を設置し、この分野の専門的知識と技能の修得を目指している。さらに、国際化・グローバル化に対応し、多様な価値観を理解し、新たな教育的価値を創造する教員を養成すべく、海外の教育先進学校・園（トロント大学附属校園、コロンビア大学附属校園、イタリアのレッキョエミリア・チルドレンやモンテッソーリスクールなど）での教育研修の強化にも努め、国際化への対応も引き続き進めることとしている。加えて、本学教育学科では、本学の教育理念の一つである社会・地域貢献を重視し、学生の社会的活動、オフキャンパス活動を奨励している。大学ではこうした実績を発展させ、大学の授業で学んだ知識や技術を、実際に社会の現場で実践する親和独自の座学と実学を組合せたプログラム「SAIL (Shinwa Action Integrated Learning)」を立ち上げたところである。学生の地域でのボランティア活動や学校・園でのスクールサポーターとしての活動経験は、教員としての資質向上に大いに役立っていると考えている。ちなみに、これまでほぼ20年以上にわたって、毎年、神戸市を中心に100名程度の学生がスクールサポーターとして活動している。学生は地域に根ざし地域に

開かれ、地域と共に発展するという大学の役割を十分に担っている。引き続き地域で活躍できる教員の養成にも力を入れていきたい。

ほかにも、令和4年より東京学芸大学の主導・連携のもとに、教員・学生がOECD Education2030に参加し、世界的視野をもつ教員養成に努めている。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

本学教育学部教育学科には、令和2年度に中学校教諭一種免許課程（数学・英語）を設置した。これは、小中一貫教育など学校種の接続が重視される中で、数学及び英語の中学校教諭一種免許状をもった小学校教員の養成を目的とするものであった。こうした経緯で本学においても中等教育にも対応した教育課程を編成することとなり、英語、数学の中等教育の授業科目も充実させてきた。同学科において中学校教諭免許状の取得を希望する学生も増え、中学校教員への就職を目指す学生も多くいる。

『令和の日本型学校教育』答申の指摘に加えて、令和2年2月18日の中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「教職課程の基準に関するワーキンググループ」の報告においても、「近年、複数の学校種、教科の免許状を保有していることを教員採用試験の際の考慮事項とする教育委員会が増加している。これは、児童生徒数の減少に伴い学校規模が縮小する中で、一人の教員が複数の学校種や教科を担当できることが求められるようになっているほか、学校段階間の接続を見通して指導する力や教科横断的な視点で学習内容等を組み立てていく力など複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づく指導力が求められていることが背景にある。」との指摘があることなどを踏まえ、新たに、中学校教諭免許課程（国語）、高等学校教諭免許課程（国語、数学及び英語）を設置し、小学校教諭免許状と中学校教諭・高等学校教諭免許状（国語、数学及び英語）を併せ持った教員を養成する計画である。社会から求められるさらに幅の広い知識・技能を持った教員の養成に努めることとしたい。

①中学校教諭一種免許課程（国語）の設置趣旨

本学教育学部には、小学校教諭一種免許課程、数学、英語の中学校教諭一種免許課程を設置しているが、学習の基盤としての各教科等における言語活動を担う国語科の中学校一種免許課程を設置することで、より幅広い分野で小学校教育・中学校教育に対応できる教師を育成していくこととしたい。学習指導要領の中学校の国語では古典など我が国の言語文化（小中：国語）の指導充実が求められている。中学校教諭一種免許課程では、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成できるようにすることを目標に、教育課程を編成し、こうした学習指導要領上の課題にもこたえていきたい。小学校教諭免許状と中学校教諭免許状（国語）を併せ持った小学校教師の養成とともに、小学校教諭免許状をもった中学校でも指導のできる国語科の教諭の養成も同時に企図している。学校段階間の接続を見通して指導する力や、教科等横断的な視点で学習内容を組み立てる力など総合的な指導力を身につけた教師の養成につながるものと考えている。

②高等学校教諭一種免許課程（国語）の設置趣旨

学習指導要領では、高等学校の国語においては、我が国の言語文化に対する理解を深める学習の充実（国語「言語文化」「文学国語」「古典探究」）が求められるとされており、高等学校教諭一種免許課程（国語）では、「国語で正確に理解し効果的に表現する資質・能力」を育てることができるようにすることを目標に教育課程を編成する。

中学校教諭一種免許課程での知識・技能をベースに、さらに幅広い知識を獲得でき、指導の幅も広がること、小学校、中学校、高等学校の複数の学校種でも指導できる教師を育成することを目指す。中央教育審議会が答申等でも指摘しているように、複数の学校で、教師として活

躍できる人材を育成し、社会の変化に適切に対応し、社会の期待にこたえ得るよう教職課程を運営していくこととしたい。

②高等学校教諭一種免許課程（数学）の設置趣旨

学習指導要領では、理数教育の充実が改善事項とされ、小・中・高等学校のすべてにおいて「数学的な見方・考え方」を重視し、数学的活動を通して知識の構造や思考、態度が変容する「深い学び」が求められている。さらに、必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育の充実も盛り込まれたところである。また、ICTを用いた指導法への対応は教員養成における重要な課題であり、理系の基本科目でもある数学の知識を持ち、その指導法を学ぶことは、小学校教員にとっても極めて重要なことである。数学の中学校教諭免許状・高等学校教諭免許状と小学校教諭免許状を併せ持った教員の養成は、現在の教育の課題に適切に応じうるものと考えている。併せて、中学校教諭の免許状（数学）とともに、高等学校教諭の免許状（数学）を取得することにより、中学校又は高等学校で数学を指導できる教員養成にも努めていきたい。高等学校教諭一種免許課程では「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、探究するために必要な資質・能力を育成する」ことができることを目標に課程を編成する。小学校教諭の免許を有した中学校、高等学校の教諭を養成することにより、各学校種や学年の連続性も見通した質の高い指導ができる教員養成につながるものと考えている。

③高等学校一種免許課程（英語）の設置趣旨

英語教育については、小学校における英語の教科化への対応や中学・高等学校の「読む」「聞く」「話す」「書く」についての指導力の向上を図ることが必要とされ、小中高の接続を意識した外国語教育の充実が課題とされている。小中高の一貫した英語教育や小学校の英語教育の専門性向上等が期待されており、英語教育の充実が求められている中で、英語の中学校教諭免許状・高等学校教諭免許状と小学校教諭免許状を併せ持った教員の養成はこうした課題への対応となり得るものである。本学は小学校教諭免許課程、中学校教諭の英語の免許課程を設置しており、高等学校教諭の英語の免許課程を設置することで、このような課題にさらに応えていくことができると考えている。併せて、中学校教諭の免許状（英語）とともに、高等学校教諭の免許状（英語）を取得することにより、中学校又は高等学校で英語を指導できる教員養成にも努めていきたい。高等学校教諭一種免許課程では、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することができるようにすることを目標に、教育課程を編成する。小学校教諭の免許状を有した中学校、高等学校の教諭を養成することにより、各学校種や学年の連続性も見通した質の高い指導ができる教員養成につながるものと考えている。

複数の免許状を取得させることで、小学校、中学校、高等学校をはじめとして各学校等の特色や関係性に関する幅広い知見を持った教員を養成し、時代の要請に応えて、現代的な課題に適切に対処できる教育人材を育成するという教育学科の目的を果たしていきたい。

なお、令和6年度から児童教育学科は教育学科へと名称変更する予定である。（届出済）

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

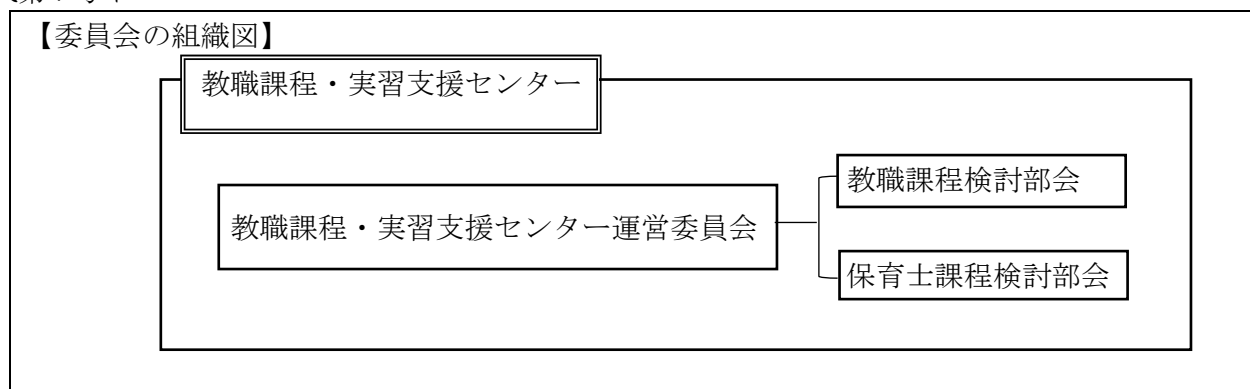
①

組織名称： 教職課程・実習支援センター
目的：次に掲げる事項を目的とする。 1 教職課程等各種資格取得課程の編成やカリキュラムの検証・改善 2 教職等各種指導の企画・立案・実施 3 教育実習等各種資格取得実習に関する学校・施設（園）・教育委員会等受け入れ先との連携協力
責任者： 教職課程・実習支援センター長
構成員（役職・人数）： センター長、副センター長、運営委員、実習担当教員、事務職員
運営方法：センターは日常的に目的に沿って業務を行うとともに、運営委員会では、センター長が議長となり、センターが所掌する次の事項等を審議する。必要に応じて全学教授会、教務委員会に付議、提案する。 1 教職課程の編成に関する事項 2 保育士課程の編成に関する事項 3 社会福祉士養成課程の編成に関する事項 4 教育実習に関する事項 5 保育実習に関する事項 6 福祉関係実習に関する事項

②

組織名称： 教職課程検討部会
目的：次に掲げる事項を審議することを目的とする。 1 教職課程の編成に関する事項 2 教育実習に関する事項 3 その他教職課程に関する事項
責任者： 教職課程検討部会委員長
構成員（役職・人数）： 国際文化学科1名、児童教育学科2名、心理学科1名、スポーツ教育学科1名、各校種の実習担当者
運営方法：月1回の定例会議を開催し、教職課程全般、主に以下の内容について検討する。 1 教職課程に実施における諸問題（カリキュラム、人事含む）の検討、提案 2 教育実習、介護等体験等に関する指導、トラブル対応 3 各教育委員会への各種依頼、調整、講師対応など

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

【神戸市教員育成協議会】

教員の資質・能力の向上方策に資するため、大学・教育委員会・学校園の連携・協力のもとに、教員養成・採用・現職研修・教育実習の円滑な実施に係る協議を目的とし、年 4 回程度開催する。

- ・神戸市あるいは周辺地域の協定大学関係者(25 大学)
- ・神戸市立学校園長会代表者 6 名
- ・教職員代表者 2 名
- ・神戸市教育委員会関係者(学校教育部長、総合教育センター所長他 20 名)

【学生スクールサポーター制度連絡協議会】

教職を目指す大学生が将来教員となる人材の自覚や資質を高め、神戸の教育力の向上に資することを目的に神戸市立学校で学校教育活動を支援することを目的とし、教育委員会、協定大学、学校が定期的に連絡協議会を開催し、課題の共有と解決を図る。

- ・協定大学関係者(69 大学)
- ・神戸市教育委員会関係者(総務部教育施策推進担当部長、教育・地域連携センター長他 8 名)

【兵庫県立高等学校中堅教諭等資質向上研修】

兵庫県立教育研修所と連携して県立高等学校の教諭及び講師に対して、個々の能力、適性、役割等に応じて、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図ることを目的に本学教員を派遣して「生徒指導」に関する研修を実施している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	学校園ボランティア（スクールサポーター）
連携先との調整方法：	協定を結んでいる 19（神戸市、芦屋市、大阪府、豊中市、宝塚市、豊岡市、伊丹市、姫路市、加東市、三木市、加西市、大阪市、米子市、加古川市、池田市、箕面市、高砂市、たつの市、篠山市）の教育委員会を中心に、学校園ボランティアの要項を取寄せ、3 月末の履修登録時に、説明会および事前指導を行う。教育委員会に大学より申

様式第7号イ

	し込みをし、配置校を決定いただく。
具体的な内容：	半年もしくは1年間、週1回(半日もしくは1日)授業の補助、行事の指導補助、部活動の指導補助、特別支援教育の指導補助などをさせていただきます。

②

取組名称：	学校園体験活動Ⅰ・Ⅱ
連携先との調整方法：	協定を結んでいる19(神戸市、芦屋市、大阪府、豊中市、宝塚市、豊岡市、伊丹市、姫路市、加東市、三木市、加西市、大阪市、米子市、加古川市、池田市、箕面市、高砂市、たつの市、篠山市)の教育委員会を中心に、学校園ボランティアの要項を取寄せ、3月末の履修登録時に、説明会および事前指導を行う。教育委員会に大学より申し込みをし、配置校を決定いただく。
具体的な内容：	①の学校園ボランティアで配置された活動先において半年もしくは1年間、週1回(半日もしくは1日)授業の補助、行事の指導補助、部活動の指導補助、特別支援教育の指導補助などをさせていただきます。 年間3回の事前事後指導を行い、中間報告・振り返り等を行う。

③

取組名称：	学習支援ボランティア
連携先との調整方法：	本学ボランティア登録学生に周知し、希望者は説明会に参加した上で、登録する。
具体的な内容：	神戸市北区、北神地域の経済的に困難な状況や自宅学習が難しい状況にある中学生(小学生)の高校進学を目標とし、3教科(英語・国語・数学)を中心に個々のレベルに応じた支援(勉強を教える)をする。

④

取組名称：	子ども食堂「さくら Café」支援活動
連携先との調整方法：	学科2年次生の履修説明の際に本活動への参加学生を募集する。2年次生、3年次生を中心にした活動グループを組織している。毎週子ども食堂運営主体である「神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会」代表者より活動予定、周知事項、活動報告がメールにて関係者(本学学生代表者、担当教員含む)に送付され、その内容を受けて、月に1回程度の学生、担当教員によるZOOMミーティングを行い、特に、毎回の活動内で行うレクリエーション計画について、担当グループに分かれて話し合う。
具体的な内容：	・原則毎月第1、第3月曜日(17時～20時)に、①学習タイム(宿題補助等の学習支援、子どもの話し相手)、②お食事タイム(夕食を子どもと一緒に)、③レクリエーションタイム(みんなで楽しめるゲーム等)のプログラムから構成され、学生は特に①、③を企画・進行する。子ども食堂に来る子どもは、幼児から中学生、高校生と幅広い。

Ⅲ. 教職指導の状況

【教職課程・実習支援センター】
○1年次生対象
・履修指導(履修登録時)
・履修カルテの作成(2月)

様式第7号イ

○2 年次生対象

- ・実習の流れ、履修指導（履修登録時）
- ・学校ボランティア・スクールサポーター等説明会（履修登録時）
- ・小学校教育実習受講希望者への実習説明会（6月）
- ・小学校・中学校免許取得希望者へ介護等体験申込説明会（11月）
- ・履修カルテの作成（2月）

○3 年次生対象

- ・実習の流れ、履修指導（履修登録時）
- ・小学校教育実習受講者へ実習に向けてのガイダンス（4月・7月）
- ・中学校・高等学校教育実習受講希望者への実習説明会（4月）
- ・介護等体験受講者に向けてのガイダンス（4月）
- ・幼稚園教育実習受講希望者への実習説明会（6月）
- ・公立幼保採用試験セミナーおよび教員採用試験対策セミナー（11月～3月）
- ・履修カルテの作成（2月）

○4 年次生対象

- ・実習の流れ、履修指導（履修登録時）
- ・幼稚園教育実習、中学校・高等学校、特別支援学校教育実習受講者へ実習に向けてのガイダンス（4月）
- ・教員免許一括申請説明会（12月）
- ・公立幼保採用試験セミナーおよび教員採用試験対策セミナー（4月～7月）
- ・履修カルテの作成（12月）

【キャリアセンター】

○3 年次生対象

- ・大阪府私立幼稚園連盟インターンシップ説明会（5月）
- ・幼保ガイダンス（6月・12月）
- ・教員採用試験ガイダンス（小・中・高）（7月）
- ・公立幼保ガイダンス（10月）
- ・幼稚園教員、保育士内定者によるパネルディスカッションおよび相談会（1月）

○4 年次生対象

- ・幼保ガイダンス（4月・5月・7月）
- ・マナー研修会（5月）
- ・2次試験対策（模擬授業、場面指導）（幼・小・中・高）（8月・9月）
- ・幼保就職内定者ガイダンス（1月）

様式第7号ウ

＜教育学科＞（認定課程：中一種免（国語））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	(大学の学びの基本を知るとともに、国語の基礎的な力を身につける。) ○神戸親和大学の学生としての基本を学ぶとともに、大学の建学の精神、教育学科のディプロマポリシーを理解する。 ○現代教育に関する基礎的素養(健康、英語運用能力、数理データサイエンスなど)について学ぶ。 ○教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自らの教職キャリア形成を展望する。 ○幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程について理解する。 ○説明的な文章を含む日本文学等の教科内容の基礎について理解する。
	後期	(我が国の言語文化を理解し、一般教養や言語能力など、教職に必要な教養と技能を身につける。) ○現代教育や教職に関する基礎的素養(日本国憲法、健康、英語運用能力、数理データサイエンスなど)について学ぶ。 ○教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ○日本語学、日本文学、漢文学等の教科内容の基本事項について学ぶ。
2年次	前期	(教科について、理解を深めるとともに、教職へのインセンティブを高める。主体的・対話的で深い学びの実践についての基本を知る。) ○特別な支援が必要な幼児児童生徒の特性等を学び、基本的な対応について知る。 ○道徳教育の意義、指導方法について知る。 ○情報通信技術を活用した教育方法を学び、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ○教科の基礎となる日本語文法、書道などの指導内容について理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ○多様な教科書教材に触れ、教科の目標の実現に向けた指導法を体験的に理解する。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、学校や子どもの実態を知る。
	後期	(教職の意義、役割を理解し、教科の指導法を知る。、主体的・対話的で深い学びの実践について学びを深める。) ○教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ○日本語文法や音声学音韻学の基本事項について理解するとともに具体的な指導方法を身につける。 ○学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ○国語の指導方法の基礎を理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、特別な教育的支援が必要な子どもへの支援方法を知る。
3年次	前期	(教科指導の実践力を養うとともに、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するなど教科の指導方法を身につける。主体的・対話的で深い学びについて、実践力を身につける。) ○日本語学、日本文学、漢文学について、専門的に学び、実践的な分析力を身につける。 ○学習指導要領の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。 ○国語の指導にあたり、学習指導案の作成や模擬授業への取組みを通して、実践的な指導方法を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、授業の方法を知る。
	後期	(教職への理解を深めるとともに、教科の専門的な指導力を身につける。小中・中高など、学校間の円滑な接続について知る。) ○教育相談について学び、生徒に関わる際に必要なカウンセリングマインドを身につける。 ○総合的な学習の時間の指導法について知る。 ○学習指導案の作成や模擬授業等への取組みをさらに進め、具体的な実践により、国語科教育法の理解を深化させる。 ○教科内容の基礎となる日本語文法や日本語史、日本文学の全体像を理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、生徒指導の実態や方法を知る。
4年次	前期	(教育実習で国語の学習指導などを実践し、教職の意義について主体的に理解する。小中・中高など、学校間の円滑な接続について実践的に学ぶ。) ○教育実習によって授業の基本を身につけるとともに、学級経営の方法や生徒指導の実際等を理解する。 ○生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ○卒業研究のテーマについて、研究の方法を設定し、文献調査や現場調査などを行う。 ●学校支援ボランティア活動等を通じて、学校経営を知る。教職について、自己の到達状況を確認する。
	後期	(大学等で学んだ知識・技能の総仕上げを行う。) ○事例研究、模擬授業、役割演技等によって、教員としての基礎的な知識・技能の仕上げを行う。 ○教育実習を通して、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を探る。 ○現代的教育課題と自己の課題を関連させ、国語についての理解を深めるとともに、小学校、中学校、高等学校の教育についての専門的理解を深める。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学科＞（認定課程：中一種免（国語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理	日本文学概論		基礎体育学	子どもと人権
		教職論			総合英語Ⅰ	
		教育心理学			ICT基礎Ⅰ	
	後期		文章の技術		日本国憲法	特別支援教育基礎理論
			日本文学史		健康行動学	児童心理学
			漢文学概論		総合英語Ⅱ	子どもと言葉
					ICT基礎Ⅱ	
2年次	前期	国語科教育法Ⅰ	日本語学概論			文学と文化
		特別支援教育入門	日本語表現法			
		教育方法・ICT活用論	書道			読書と豊かな人間性
		道德教育の指導法				学校園体験活動Ⅰ
	後期	国語科教育法Ⅱ	話し方の技術			学習心理学
		教育社会学	日本語文法（古典）			教育とメディア
		教育課程論	日本語音声学			国語
			書道史			
3年次	前期	国語科教育法Ⅲ	日本語文法（現代）	人権教育		発達障害児教育Ⅰ
		特別活動の指導法	日本語史			学校園体験活動Ⅱ
		生徒・進路指導論	日本文学講読（古典）			教科教育法・国語
						日本文学講義
			漢文学講読			社会言語学
	後期	国語科教育法Ⅳ	日本文学講読（現代）			教育評価
		総合的な学習の時間の指導法				教育哲学
		教育相談				教育法規
						防災・安全教育
						子どもと絵本
4年次	前期	教育実習事前事後指導（中高）				教育制度
		教育実習（中高）				学級経営入門
						模擬授業演習
						小中・中高一貫教育（国語）
	後期	教職実践演習（幼小中高）				発達障害児教育Ⅱ

様式第7号ウ

<教育学科> (認定課程: 高一種免(国語))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	(大学の学びの基本を知るとともに、国語の基礎的な力を身につける。) ○神戸親和大学の学生としての基本を学ぶとともに、大学の建学の精神、教育学科のディプロマポリシーを理解する。 ○現代教育に関する基礎的素養(健康、英語運用能力、数理データサイエンスなど)について学ぶ。 ○教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自らの教職キャリア形成を展望する。 ○幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程について理解する。 ○実用的な文章や論理的な文章を含む日本文学等の教科内容の基礎について理解する。
	後期	(一般教養や言語能力など、我が国の言語文化を理解し、教職に必要な教養と技能を身につける。) ○現代教育や教職に関する基礎的素養(日本国憲法、健康、英語運用能力、数理データサイエンスなど)について学ぶ。 ○教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ○教科内容の背景となる日本語学、日本文学、漢文学などの概要について学ぶ。
2年次	前期	(教科について、理解を深めるとともに、教職へのインセンティブを高める。主体的・対話的で深い学びの実践についての基本を知る。) ○特別な支援が必要な幼児児童生徒の特性等を学び、基本的な対応について知る。 ○道徳教育の意義、指導方法について知る。 ○情報通信技術を活用した教育方法を学び、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ○教科内容の基礎となる日本語文法などについて理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ○多様な教科書教材に触れ、教科の目標の実現に向けた指導法を体験的に理解する。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、学校や子どもの実態を知る。
	後期	(教職の意義、役割を理解し、教科の指導法を知る。主体的・対話的で深い学びの実践について学びを深める。) ○教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ○日本語文法や音声学音韻学の概要を理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ○学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ○「論理国語」「国語表現」等高校国語の教科の指導内容の基礎を理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、特別な教育的支援が必要な子どもへの支援方法を知る。
3年次	前期	(教科指導の実践力を養うとともに、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成するなど教科の指導方法を身につける。主体的・対話的で深い学びについて、実践力を身につける。) ○日本語学、日本文学、漢文学について、専門的に学び、広い視野に立った深い分析力を身につける。(前期後期入れ替え) ○学習指導要領の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。 ○国語の指導にあたり、学習指導案の作成や模擬授業への取組みを通して、実践的な指導方法を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、授業の方法を知る。
	後期	(教職への理解を深めるとともに、教科の専門的な指導力を身につける。小中・中高など、学校間の円滑な接続について知る。) ○教育相談について学び、生徒に関わる際に必要なカウンセリングマインドを身につける。 ○総合的な探究の時間の指導法について知る。 ○学習指導案の作成や模擬授業等への取組みをさらに進め、具体的な実践により、国語科教育法の理解を深化させる。 ○教科内容の基礎となる日本語文法、日本語史、日本文学の全体像を理解するとともに、より深い理解力を育む指導方法を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、生徒指導の実態や方法を知る。
4年次	前期	(教育実習で国語の学習指導などを実践し、教職の意義について主体的に理解する。小中・中高など、学校間の円滑な接続について実践的に学ぶ。) ○教育実習によって授業の基本を身につけるとともに、学級経営の方法や生徒指導の実際等を理解する。 ○生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ○卒業研究のテーマについて、研究の方法を設定し、文献調査や現場調査などを行う。 ●学校支援ボランティア活動等を通じて、学校経営を知る。教職について、自己の到達状況を確認する。
	後期	(大学等で学んだ知識・技能の総仕上げを行う。) ○事例研究、模擬授業、役割演技等によって、教員としての基礎的な知識・技能の仕上げを行う。 ○教育実習を通して、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を探る。 ○現代的教育課題と自己の課題を関連させ、国語についての理解を深めるとともに、小学校、中学校、高等学校の教育についての専門的理解を深める。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学科＞（認定課程：高一種免（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教育原理	日本文学概論		基礎体育学	子どもと人権
		教職論			総合英語Ⅰ	
		教育心理学			ICT基礎Ⅰ	
	後期		文章の技術		日本国憲法	特別支援教育基礎理論
			日本文学史		健康行動学	児童心理学
			漢文学概論		総合英語Ⅱ	子どもと言葉
					ICT基礎Ⅱ	
2年次	前期	国語科教育法Ⅰ	日本語学概論			書道
		特別支援教育入門	日本語表現法			文学と文化
		教育方法・ICT活用論				読書と豊かな人間性
				道德教育の指導法		学校園体験活動Ⅰ
	後期	国語科教育法Ⅱ	話し方の技術			学習心理学
		教育社会学	日本語文法(古典)			教育とメディア
		教育課程論	日本語音声学			国語
						書道史
						子どもと文学
3年次	前期	国語科教育法Ⅲ	日本語文法(現代)	人権教育		発達障害児教育Ⅰ
		特別活動の指導法	日本語史			学校園体験活動Ⅱ
		生徒・進路指導論	日本文学講読(古典)			教科教育法・国語
			漢文学講読			日本文学講義
						社会言語学
	後期	国語科教育法Ⅳ	日本文学講読(現代)			教育評価
		総合的な学習の時間の指導法				教育哲学
		教育相談				教育法規
						子どもと絵本
						防災・安全教育
4年次	前期	教育実習事前事後指導(中高)				教育制度
		教育実習(中高)				学級経営入門
						模擬授業演習
						小中・中高一貫教育(国語)
	後期	教職実践演習(幼小中高)				発達障害児教育Ⅱ

様式第7号ウ

<教育学科> (認定課程: 高一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	(大学の学びの基本を知るとともに、数学の基礎的な力を身につける。) ○神戸親和大学の学生としての基本を学ぶとともに、大学の建学の精神、教育学科のディプロマポリシーを理解する。 ○教職に関して、その資質の土台となる内容を学ぶ。 ○数学について、高等学校までの学びの基礎・基本の力が身についていることを確認する。
	後期	(一般教養や言語能力など、教職に必要な教養を身につける。) ○日本国憲法、健康、英語運用能力の基礎等について学ぶ。 ○代数学、解析学について、基本的な内容を学ぶ。
2年次	前期	(教科について、理解を深めるとともに、教職へのインセンティブを高める。主体的・対話的で深い学びの実践についての基本を知る。) ○特別な支援が必要な幼児児童生徒の特性等を学び、基本的な対応について知る。 ○道徳教育の意義、指導方法について知る。 ○代数学、解析学について、学びを深める。 ○幾何学、数学の指導方法について、基本的な内容を学ぶ。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、学校や子どもの実態を知る。
	後期	(教職の意義、役割を理解し、教科の指導法を知る。主体的・対話的で深い学びの実践について学びを深める。) ○幼児児童生徒の発達や学習過程、教育の社会的役割を理解する。 ○幾何学について、学びを深める。 ○数学教育におけるコンピュータの活用について知る。 ○数学の指導方法の基礎を理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、特別な教育的支援が必要な子どもへの支援方法を知る。
3年次	前期	(教科指導の実践力を養うとともに、数学的な味方・考え方を働かせて、探究するために必要な資質・能力を育成できるよう教科の指導方法を身につける。主体的・対話的で深い学びについて、実践力を身につける。) ○教育相談について学び、幼児児童生徒に関わる際に必要なカウンセリングマインドを身につける。 ○確率論・統計学について、基本的な内容を学ぶ。 ○数学の指導にあたり、学習指導案の作成や模擬授業への取組みを通して、実践的な指導方法を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、授業の方法を知る。
	後期	(教職への理解を深めるとともに、教科の専門的な指導力を身につける。小中・中高など、学校間の円滑な接続について知る。) ○総合的な探究の時間の指導法について知る。 ○学習指導案の作成や模擬授業等への取組みをさらに進め、具体的な実践により、数学科教育法の理解を深化させる。 ○代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学について、専門的に学び、実践的な力を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、生徒指導の実態や方法を知る。
4年次	前期	(教育実習で数学の学習指導などを実践し、教職の意義について主体的に理解する。小中・中高など、学校間の円滑な接続について実践的に学ぶ。) ○教育実習によって授業の基本を身につけるとともに、学級経営の方法や生徒指導の実態等を理解する。 ○卒業研究のテーマについて、研究の方法を設定し、文献調査や現場調査などを行う。 ●学校支援ボランティア活動等を通じて、学校経営を知る。教職について、自己の到達状況を確認する。
	後期	(大学等で学んだ知識・技能の総仕上げを行う。) ○事例研究、模擬授業、役割演技等によって、教員としての基礎的な知識・技能の仕上げを行う。 ○卒業研究をまとめることによって、数学についての理解を深めるとともに、小学校、中学校、高等学校の教育についての専門的理解を深める。

様式第7号ウ（教諭）

<教育学科>（認定課程：高一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理			基礎体育学	数学
		教職論			総合英語Ⅰ	基礎数学Ⅰ
		教育心理学			ICT基礎Ⅰ	情報科学
	後期		代数学Ⅰ		日本国憲法	基礎数学Ⅱ
			解析学Ⅰ		健康行動学	統計学入門
					総合英語Ⅱ	特別支援教育基礎理論
					ICT基礎Ⅱ	児童心理学
2年次	前期	数学科教育法Ⅰ	代数学Ⅱ	道德教育の指導法		情報と社会
		特別支援教育入門	幾何学Ⅰ			学校園体験活動Ⅰ
		教育方法・ICT活用論	解析学Ⅱ			
			コンピュータ概論			
	後期	数学科教育法Ⅱ	幾何学Ⅱ			情報数学
		教育社会学				学習心理学
		教育課程論				教育とメディア
3年次	前期	数学科教育法Ⅲ	確率・統計論Ⅰ	人権教育		数学演習Ⅰ
		特別活動の指導法	代数学Ⅲ			学校園体験活動Ⅱ
		生徒・進路指導論	解析学Ⅲ			発達障害児教育Ⅰ
						教科教育法・算数
	後期	数学科教育法Ⅳ	幾何学Ⅲ			数学演習Ⅱ
		総合的な学習の時間の指導法	確率・統計論Ⅱ			教育哲学
		教育相談				教育法規
						防災・安全教育
						教育評価
4年次	前期	教育実習事前事後指導（中高）				数学演習Ⅲ
		教育実習（中高）				教育制度
						小中・中高一貫教育（算数・数学）
						模擬授業演習
	後期	教職実践演習（幼小中高）				数学演習Ⅳ
						代数学応用
						発達障害児教育Ⅱ

様式第7号ウ

＜教育学科＞（認定課程：高一種免（英語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	（大学の学びの基本を知るとともに、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動などの英語の基礎的な力を身につける。） ○神戸親和大学の学生としての基本を学ぶとともに、大学の建学の精神、教育学科のディプロマポリシーを理解する。 ○教職に関して、その資質の土台となる内容を学ぶ。 ○英語学、英語コミュニケーションについて、基本的な内容を学ぶ。
	後期	（一般教養や、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を結び付けた言語能力など、教職に必要な教養と技能を身につける。） ○日本国憲法、健康、英語運用能力の基礎等について学ぶ。 ○英語学、英語コミュニケーションについて、学びを深める。 ○異文化理解について、基本的な内容を学ぶ。
2年次	前期	（教科について、理解を深めるとともに、教職へのインセンティブを高める。外国語による統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成するなど主体的・対話的で深い学びの実践についての基本を知る。） ○特別な支援が必要な幼児児童生徒の特性等を学び、基本的な対応について知る。 ○道徳教育の意義、指導方法について知る。 ○英語コミュニケーションについて、実践力を身につける。 ○英語の指導方法について、基本的な内容を学ぶ。 ○英語学、英語文学の学びを通して、英語教育の基本的な内容を学ぶ。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、学校や子どもの実態を知る。
	後期	（教職の意義、役割を理解し、教科の指導法を知る。外国語による統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成するなど主体的・対話的で深い学びの実践について学びを深める。） ○幼児児童生徒の発達や学習過程、教育の社会的役割を理解する。 ○英語コミュニケーションについて、応用力を身につける。 ○英語の指導方法の基礎を理解するとともに、具体的な指導方法を身につける。 ●スクールサポーターなどの学校支援ボランティア活動に参加し、特別な教育的支援が必要な子どもへの支援方法を知る。
3年次	前期	（教科指導の実践力を養うとともに、教科の指導方法を身につける。主体的・対話的で深い学びのについて、実践力を身につける。） ○教育相談について学び、幼児児童生徒に関わる際に必要なカウンセリングマインドを身につける。 ○異文化理解の専門領域について学ぶ。 ○英語の指導にあたり、学習指導案の作成や模擬授業への取組みを通して、実践的な指導方法を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、授業の方法を知る。
	後期	（教職への理解を深めるとともに、教科の専門的な指導力を身につける。小中・中高など、学校間の円滑な接続について知る。） ○総合的な探究の時間の指導法について知る。 ○学習指導案の作成や模擬授業等への取組みをさらに進め、具体的な実践により、英語科教育法の理解を深化させる。 ○英語学について、専門的に学び、実践的な分析力を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じ、生徒指導の実態や方法を知る。
4年次	前期	（教育実習で英語の学習指導などを実践し、教職の意義について主体的に理解する。小中・中高など、学校間の円滑な接続について実践的に学ぶ。） ○教育実習によって授業の基本を身につけるとともに、学級経営の方法や生徒指導の実際等を理解する。 ○卒業研究のテーマについて、研究の方法を設定し、文献調査や現場調査などを行う。 ○英語文学について、専門的に学び、実践的な分析力を身につける。 ●学校支援ボランティア活動等を通じて、学校経営を知る。教職について、自己の到達状況を確認する。
	後期	（大学等で学んだ知識・技能の総仕上げを行う。） ○事例研究、模擬授業、役割演技等によって、教員としての基礎的な知識・技能の仕上げを行う。 ○英語文学について、専門的に学び、高度な分析力を身につける。 ○卒業研究をまとめることによって、英語についての理解を深めるとともに、小学校、中学校、高等学校の教育についての専門的理解を深める。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学科＞（認定課程：高一種免（英語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理	英語の文法		基礎体育学	海外教育事情
		教職論	英語発音トレーニング		総合英語Ⅰ	Interactive EnglishⅠ
		教育心理学	英語コミュニケーションⅠ		ICT基礎Ⅰ	
			英米文化概論			
	後期		English Vocabulary Building		日本国憲法	特別支援教育基礎理論
			英語文学概論		健康行動学	児童心理学
			英語コミュニケーションⅡ		総合英語Ⅱ	外国語（英語）
					ICT基礎Ⅱ	Face to Face English
2年次	前期	英語科教育法Ⅰ	英語の歴史	道徳教育の指導法		英語教材研究Ⅰ
		特別支援教育入門	イギリス・アメリカ文学史			教科教育法・外国語（英語）
		教育方法・ICT活用論	英語コミュニケーションⅢ			学校園体験活動Ⅰ
						海外教育実地研究
	後期	英語科教育法Ⅱ	英語学概論			学習心理学
		教育社会学	英語コミュニケーションⅣ			教育とメディア
		教育課程論				
3年次	前期	英語科教育法Ⅲ	比較文化論	人権教育		発達障害児教育Ⅰ
		特別活動の指導法	英語文学作品研究A			学校園体験活動Ⅱ
			異文化コミュニケーション論			英語教材研究Ⅱ
		生徒・進路指導論				英語プレゼンテーション
	後期	英語科教育法Ⅳ	英語文学作品研究B			教育評価
		総合的な学習の時間の指導法				教育哲学
		教育相談				教育法規
						防災・安全教育
4年次	前期	教育実習事前事後指導（中高）				教育制度
		教育実習（中高）				学級経営入門
						小中・中高一貫教育（外国語活動・外国語）
						模擬授業演習
	後期	教職実践演習（幼小中高）				発達障害児教育Ⅱ